



Sun Ultra™ 20 ワークステーション クイックスタートガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 819-3846-10
2005 年 7 月、改訂 A

本書に関するコメントは、次の宛先にお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、AnswerBook2, docs.sun.com, Ultra, Java, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザインターフェイスは、Sun Microsystems, Inc. がユーザおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「あるがまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗黙的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, Ultra, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

序章 v

1. Sun Ultra 20 ワークステーションのセットアップ 1

安全上の注意 1

設置の計画 2

ワークステーションの開梱 3

正面パネルの概要 4

背面パネルの概要 5

ワークステーションのケーブル配線 6

ワークステーションへの電源の投入 7

ワークステーションの電源の切断 8

2. ソフトウェアのインストール 9

インストールの準備 9

プライマリブートディスクの消去 11

オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定 11

オペレーティングシステムのインストール 12

up2date ユーティリティの実行 13

ドライバのインストールと診断パーティションのマウント 14

Linux オペレーティングシステム用ドライバのインストール 15

Solaris オペレーティングシステム用ドライバのインストール 16

Windows XP オペレーティングシステム用ドライバのインストール 17

Windows XP 用 NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール 21

3. インストール済みソフトウェアの設定 23

Solaris 10 オペレーティングシステムソフトウェアの設定 24

ライセンス契約に関する情報 24

ディスクの設定 24

インストール手順 25

インストール済み Solaris 10 オペレーティングシステムの設定 26

インストール済み開発ソフトウェアの設定 28

Sun Studio 10 ソフトウェア 28

Sun Java Studio Creator 2004Q2 33

Sun Java Studio Enterprise 7 35

Install Check ツールの使用 39

序章

『Sun Ultra 20 ワークステーションクイックスタートガイド』では、ワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアの設定、電源投入および構成について説明します。

本書の構成

本書は次の章で構成されています。

第 1 章では、ワークステーションの開梱、ケーブル配線および電源投入の方法について説明します。

第 2 章では、Sun Ultra 20 ワークステーションがサポートするオペレーティングシステムと、システムに付属しているドライバについて説明します。

第 3 章では、出荷時にインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステムおよび付属の開発用ソフトウェアの設定方法について説明します。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザ	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザ	#

表記

フォント ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力	.login ファイルを変更します。 すべてのファイルをリストするには、 ls -a を使います。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力に対してユーザが入力する内容	% su Password:
AaBbCc123	マニュアルのタイトル、新しい用語、強調する用語。実際の名称や値に置き換えるコマンド行の変数。	『ユーザガイド』の第6章をお読みください。 これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <i>ファイル名</i> を入力します。

1 ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

オンラインと記載されているドキュメントは、次のサイトから入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Workstation_Products/Workstations/ultra_20/

用途	タイトル	部品番号
システム設定情報	<i>Sun Ultra 20 Workstation Setup Guide</i>	819-2150-xx
概要およびサービス情報	<i>Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド</i>	819-3836-10
安全上の注意	<i>Important Safety Information for Sun Systems</i> <i>Sun Ultra 20 Workstation Safety and Compliance Guide</i>	816-7190-10 819-2149-xx
最新情報	<i>Sun Ultra 20 ワークステーションリリースノート</i>	819-3826-10

文書、サポート、トレーニング

分野	URL	説明
文書	http://www.sun.com/documentation/	PDFバージョンまたはHTMLバージョンのドキュメントのダウンロードや印刷ドキュメントの注文
サポートとトレーニング	http://www.sun.com/supporttraining/	テクニカルサポート、パッチのダウンロード、Sun のトレーニングコースの詳細

他社のウェブサイト

Sun は、本書に記載されている他社のウェブサイトの更新情報については責任を負いかねます。また、他社のウェブサイトやリソースに掲載されているコンテンツ、広告、製品などについては何ら保証義務または責任を負わないものとします。さらに、他社のウェブサイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際のまたは疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

弊社は、ドキュメントの改善を常に心掛けており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。
『*Sun Ultra 20* ワークステーションクイックスタートガイド』(819-3846-10)

Sun Ultra 20 ワークステーションの セットアップ

本章では、次の項目について説明します。

- 「安全上の注意」 (1 ページ)
- 「設置の計画」 (2 ページ)
- 「ワークステーションの開梱」 (3 ページ)
- 「ワークステーションのケーブル配線」 (6 ページ)
- 「ワークステーションへの電源の投入」 (7 ページ)
- 「ワークステーションの電源の切断」 (8 ページ)

安全上の注意

Sun Ultra 20ワークステーションの安全上の注意については、次のマニュアルをご覧ください。

- 『*Important Safety Information for Sun Hardware Systems*』 (816-7190-10)
(Sun Ultra 20 ワークステーションのパッケージに付属の印刷文書)
- 『*Marrakesh Workstation Safety and Compliance Guide*』 (819-2149-xx)
(<http://sun.com/documentation> から入手可能)

設置の計画

以下に、Sun Ultra 20 ワークステーションの設置手順をフロー図で示します。

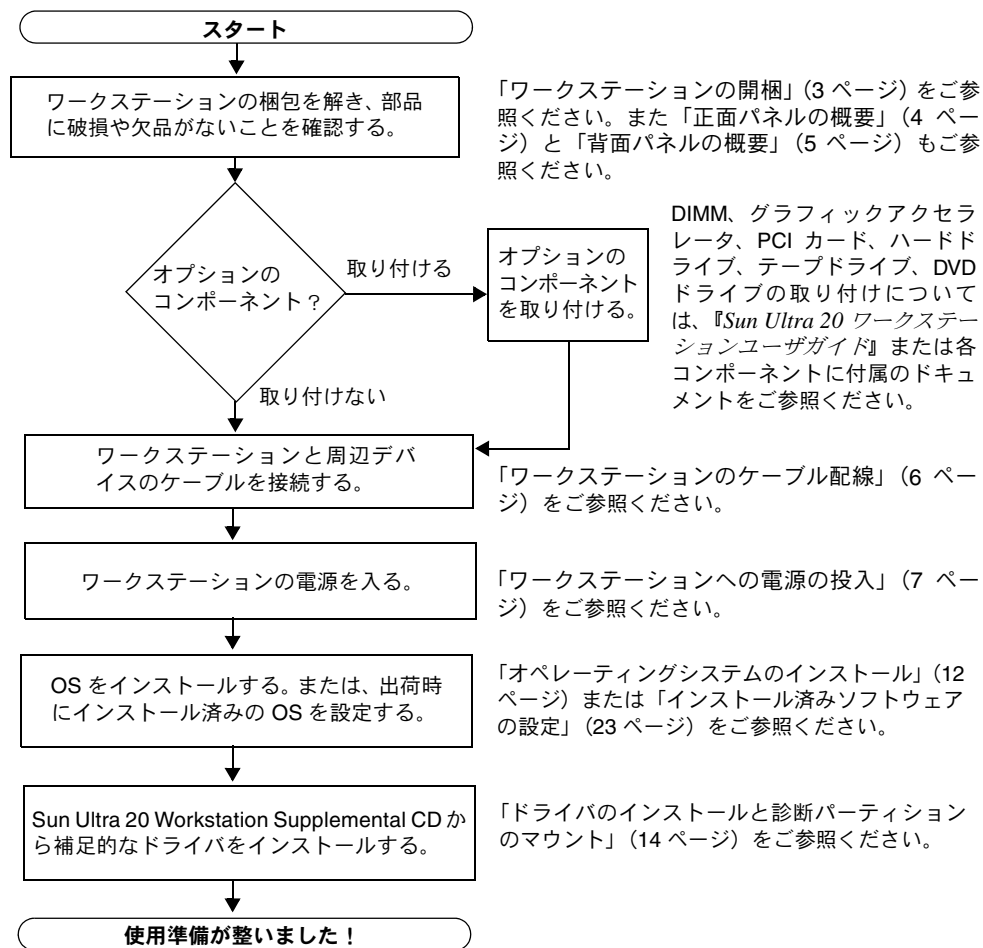


図 1-1 Sun Ultra 20 ワークステーションの設置手順

ワークステーションの開梱

ワークステーションのコンポーネントを箱から慎重に取り出します。パッケージには、次のものが含まれています。

- Sun Ultra 20 ワークステーション
- Sun Ultra 20 Workstation Documentation CD : 次のドキュメントが含まれています。
 - *Sun Ultra 20 Workstation Setup Guide*
 - *Sun Ultra 20 ワークステーションクイックスタートガイド*
 - *Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド*
 - *Important Safety Information for Sun Systems*
- Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD (ドライバおよび診断ソフトウェアが含まれています)
- 次のソフトウェアのメディアキット : Sun™ Studio 10、Sun Java™ Studio Creator、Sun Java™ Studio Enterprise
- DMS 59 ケーブル(ワークステーションが NVS280 ビデオカードで設定されている場合)

電源ケーブル、キーボード、マウスなどの日本向けアクセサリキットは別途梱包されています。

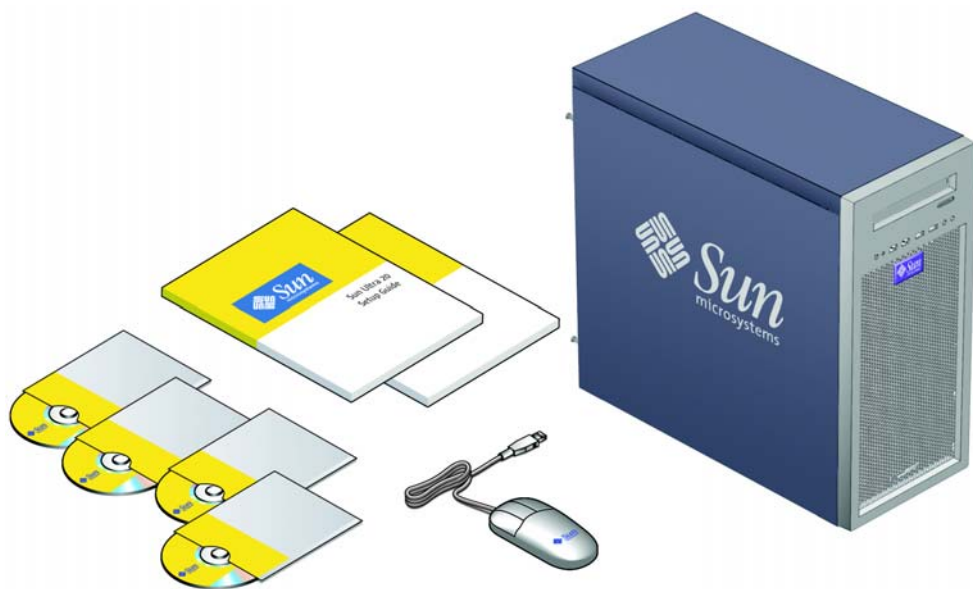


図 1-2 Sun Ultra 20 ワークステーションの付属品

正面パネルの概要

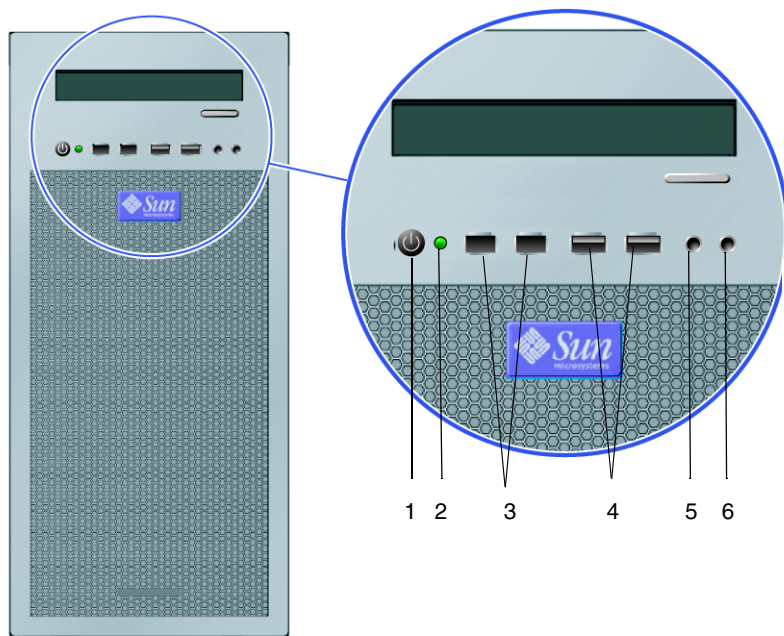


図 1-3 Sun Ultra 20 ワークステーションの正面パネル

表 1-1 Sun Ultra 20 ワークステーションの正面パネル

ラベル	ボタン / LED / ポート	ラベル	ボタン / LED / ポート
1	電源ボタン	4	USB ポート 2個
2	電源 LED	5	マイク入力端子
3	1394 (Firewire) ポート 2個	6	ヘッドホン出力端子

背面パネルの概要

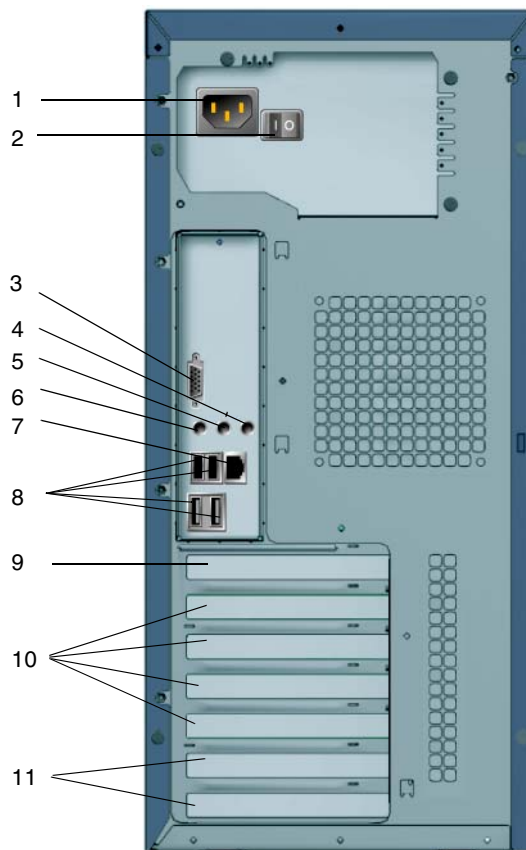


図 1-4 Sun Ultra 20 ワークステーションの背面パネル

表 1-2 Sun Ultra 20 ワークステーションの背面パネル

ラベル	コネクタ/スロット	ラベル	コネクタ/スロット
1	電源コネクタ	7	イーサネットコネクタ
2	電源スイッチ	8	USB コネクタ 4個
3	オンボードのHDI15ビデオコネクタ	9	PCI Express x16グラフィックスロット
4	マイク端子	10	PCI スロット 4個
5	ライン入力端子	11	PCI Express x1 スロット 2個
6	ライン出力端子		

ワークステーションのケーブル配線

図 1-5 に、ワークステーションのケーブル接続を示します。

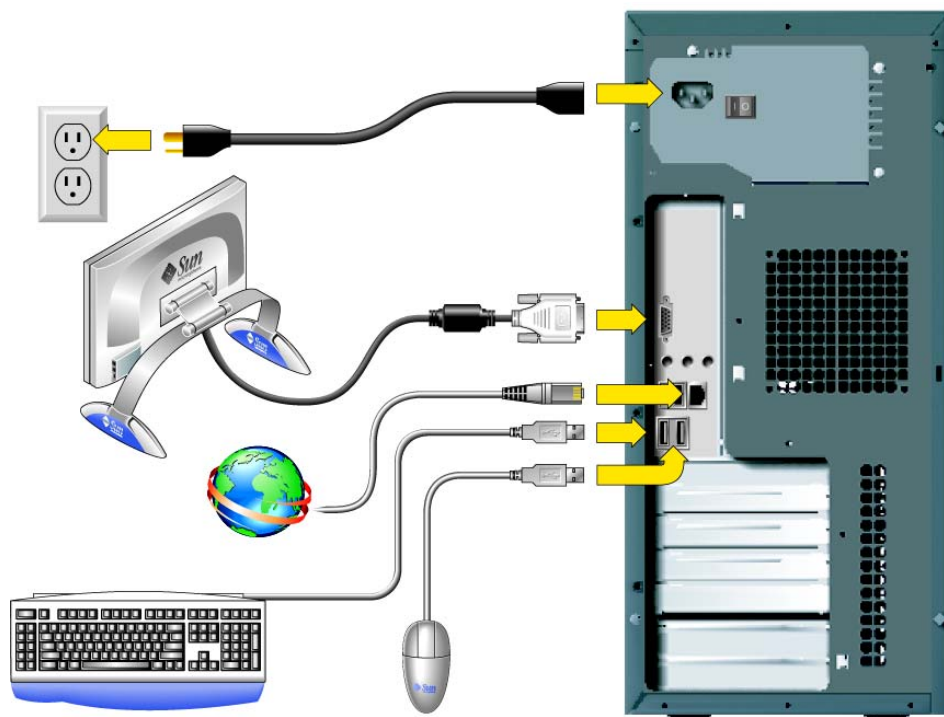


図 1-5 ケーブル接続

ワークステーションと外部デバイスのケーブルは次の順序で接続します（図 1-5 を参照）。

1. ワークステーションの電源コードを接地されているコンセントに差し込みます。
2. キーボードとマウスを背面パネルの USB コネクタに接続します。
3. モニターケーブルを、オンボードのビデオコネクタまたは PCI Express グラフィック（トップ） PCI スロットに取り付けられているグラフィックカードに接続します。

ご参考： DMS59 ケーブルは、NVS280 カードが取り付けられているシステムのみ付属しています。

4. イーサネットケーブルの一端を Sun Ultra 20 ワークステーションのイーサネットコネクタに接続し、ケーブルのもう一方の端をイーサネット側の RJ45 端子に差し込みます。
5. その他の外部デバイスをワークステーションの残りのコネクタに接続します。

ワークステーションへの電源の投入

ヒント： メモリ DIMM、PCI カード、光磁気 (MO) ドライブまたはハードドライブなどのオプションの内部コンポーネントを組み込む場合には、ワークステーションの電源を入れる前にそれらを取り付けてください。オプションのコンポーネントを取り付けない場合、こ以上でワークステーションの電源を入れる準備が整いました。

1. モニタの電源を入れてから、他の周辺デバイスの電源を入れます。
2. ワークステーションの背面にある電源スイッチをオン (○) の位置にします。
3. 前面パネルにあるワークステーションの電源ボタンを押します (図 1-3 参照)。
4. 数秒待ってから、電源ボタンの隣にあるプラットフォーム電源 LED の点灯を確認します。
電源ボタンのプラットフォーム電源 LED は、ワークステーションが内部起動処理を開始した後点灯します (図 1-3 参照)。
5. 初めてワークステーションに電源を入れる場合は、システムが起動し終わってから、オペレーティングシステムをインストールするか、インストール済みのオペレーティングシステムを設定する必要があります。
 - オペレーティングシステムのインストールについては、第 2 章をご参照ください。
 - 出荷時にインストール済みの Solaris 10 オペレーティングシステムの設定については、第 3 章をご参照ください。

ワークステーションの電源の切断

1. データを保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じます。
2. ワークステーションの電源を切る前に、次のすべての電源切断オプションをお読みください。
 - オペレーティングシステムのシャットダウンコマンドまたはメニューオプションを使ってワークステーションの電源を切ります。

ほとんどの場合、それによりオペレーティングシステムが終了してワークステーションの電源が切れます。
 - オペレーティングシステムのコマンドでワークステーションの電源が切れない場合、またはこのコマンドが利用できない場合は、電源ボタン（位置については図 1-3 を参照）を押します。

電源ボタンを押すと、適切な順序でオペレーティングシステムのシャットダウンが開始され、ワークステーションの電源が切れます。

ご注意： データの損失を防ぐため、可能な限り上記の 2 つのオプションをお使いください。

- 前述の操作でワークステーションの電源が切れない場合は、電源ボタンを約 4 秒間、押し続けてください。

この方法では、ワークステーションの電源は遮断されますが、適切な順序でのシステムのシャットダウンは行われません。この方法では、データを失う可能性があります。

上記の手順でワークステーションの電源が切れない場合の対応策については、『*Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド*』（819-3836-10）の「トラブルシューティング」をご参照ください。

ご参考： ワークステーションの電源を再投入する場合には、ワークステーションの電源が切れてから 4 秒以上待って電源スイッチをオンにしてください。

ソフトウェアのインストール

本章は次のセクションから構成されます。

- 「インストールの準備」 (9 ページ)
- 「オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定」 (11 ページ)
- 「オペレーティングシステムのインストール」 (12 ページ)
- 「up2date ユーティリティの実行」 (13 ページ)
- 「ドライバのインストールと診断パーティションのマウント」 (14 ページ)

本製品には出荷時に Solaris 10 オペレーティングシステムがインストールされていますが、別のオペレーティングシステムをインストールしたい場合に本章の手順をご参照ください。

Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD には診断ソフトウェアも収録されています。診断ソフトウェアの使用方法については、『*Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド*』(819-3836-10) をご参照ください。

インストールの準備

図 2-1 に、ワークステーションへオペレーティングシステムをインストールするための作業手順をフロー図で示します。

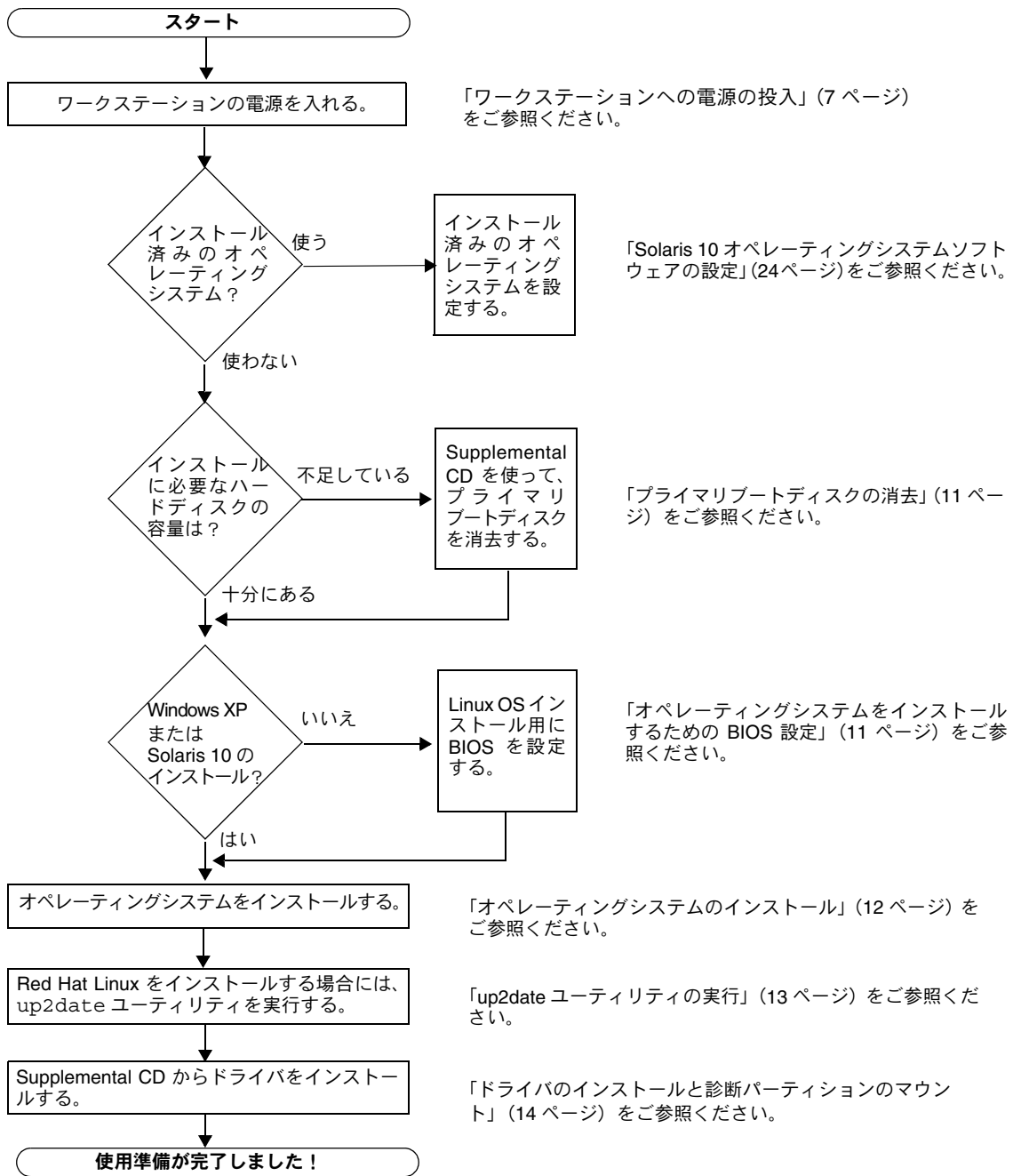


図 2-1 インストール作業手順

プライマリブートディスクの消去

オペレーティングシステムのインストールに必要な容量がブートパーティションにない場合は、Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD のメインメニューにある [Erase Primary Boot Hard Disk] オプションを使うと、インストール済みのオペレーティングシステムを消去して、新しいインストールのための容量を確保できます。



ご注意： Supplemental CD の [Erase Primary Boot Hard Disk] オプションを選ぶと、診断パーティションを除く、ハードドライブ上のすべてのパーティションが消去されます。すべてのユーザデータが失われるため、この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードディスクの消去は、次の手順で行います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. Supplemental CD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、Supplemental CD のメインメニューから次のオプションを選びます。
 3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選ぶと、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション（診断パーティションを除く）が消去されます。診断パーティションだけは消去されずにそのまま残ります。

オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、Sun Ultra 20 ワークステーションの BIOS がインストールするオペレーティングシステム向けに設定されていることを確認する必要があります。インストールするオペレーティングシステムの種類に該当するセクションを参照してください。

Windows XP または Solaris 10 をインストールする場合の BIOS 設定

[Installed O/S] オプションのデフォルト設定は [Others] です。このデフォルト設定が変更されていない限り、Windows XP または Solaris 10 オペレーティングシステムのために BIOS 設定を変更する必要はありません。

[BIOS Installed O/S] オプションのデフォルト設定が変更されている場合には、Windows XP または Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする前に次の操作を実施してください。

1. ワークステーションの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して [BIOS Setup] メニューを開きます。
2. [Advanced BIOS Features] メニューを選びます。
3. [Installed O/S] オプションを [Others] に変更します。
4. F10 キーを押して BIOS の変更内容を保存し、メニューを閉じます。

Linux オペレーティングシステムをインストールする場合の BIOS 設定

Linux オペレーティングシステム (RedHat Enterprise Linux 3 および 4 および SUSE Linux Enterprise System SP1) をインストールする場合には、次の操作を実施してください。

1. ワークステーションの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して [BIOS Setup] メニューを開きます。
2. [Advanced BIOS Features] メニューを選びます。
3. [Installed O/S] オプションを [Linux] に変更します。
4. F10 キーを押して BIOS の変更内容を保存し、メニューを閉じます。

オペレーティングシステムのインストール

Sun Ultra 20 ワークステーションには、Solaris 10 オペレーティングシステムがあらかじめインストールされていますが、別のオペレーティングシステムをインストールすることもできます。

本書の出版時点では、次のオペレーティングシステムがサポートされています。

- Solaris 10 オペレーティングシステム
- Red Hat Enterprise Linux 3 WS Update 5、32 ビットおよび 64 ビット
- Red Hat Enterprise Linux 4 WS Update 1、32 ビットおよび 64 ビット
- SUSE Linux Enterprise System 9 SP 1、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows XP、32 ビット (SP2) および 64 ビット (WHQL 認定)

これらのオペレーティングシステムのインストール方法は、それぞれのオペレーティングシステムソフトウェアに付属しているメディアセットに記載されています。

Linux または Windows XP オペレーティングシステムをインストールする場合には、次の点にご注意ください。

- Linux オペレーティングシステムをインストールする場合には、事前に [BIOS Installed O/S] を設定する必要があります。「オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定」(11 ページ) をご参照ください。

- Windows XP オペレーティングシステムをインストールしてからワークステーションで RAID を設定する予定がある場合には、Windows XP のインストールと同時に RAID ドライバをインストールする必要があります。「Windows XP オペレーティングシステム用ドライバのインストール」(17 ページ) をご参照ください。

Sun Ultra 20 ワークステーション上で Red Hat Enterprise Linux 3、4 WS、または SUSE Linux Enterprise System を走らせたい場合は、次のウェブサイトから入手できます。

<http://www.sun.com/software/linux/index.html>

他のオペレーティングシステムについても、Sun Ultra 20 ワークステーションの初回リリース後にサポートを開始する予定です。現在サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.sun.com/ultra20>

ご参考： Sun Ultra 20 ワークステーションには、診断パーティションがあらかじめインストールされています。削除した診断パーティションを Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD から再インストールする方法については、『Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド』(819-3836-10) をご参照ください。

up2date ユーティリティの実行

Red Hat Enterprise Linux をインストールする場合、オペレーティングシステムのインストール完了後、Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD からビデオドライバをインストールする以前に、up2date ユーティリティを実行してください。

ご参考： NVIDIA ドライバを先にインストールしてしまうと、up2date によりカーネルが更新されるため、事後に NVIDIA ドライバを再インストールする必要があります。

ドライバのインストールと診断パーティションのマウント

オペレーティングシステムをインストールした後、Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CDにあるインストールスクリプトを実行し、インストールしたオペレーティングシステムに対応するドライバをインストールしてください。

Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CDは、Sun Ultra 20 ワークステーションに付属していますが、次のサイトからもダウンロードできます。

<http://www.sun.com/ultra20>

また、サポートされているすべてのオペレーティングシステムにおいて、新しい診断パーティションを作成した場合にも、インストールスクリプトを使い、作成した診断パーティションをマウントする必要があります。（診断パーティションの作成方法については、『*Sun Ultra 20 ワークステーションユーザガイド*』（819-3836-10）をご参照ください。）Windows XP ワークステーションでは、診断パーティションは作成できません。

本セクションでは、次の項目について説明します。

- 「Linux オペレーティングシステム用ドライバのインストール」（15 ページ）
- 「Solaris オペレーティングシステム用ドライバのインストール」（16 ページ）
- 「Windows XP オペレーティングシステム用ドライバのインストール」（17 ページ）
- 「Windows XP用NVIDIAディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール」（21 ページ）

Linux オペレーティングシステム用ドライバのインストール

Linux オペレーティングシステムの初期インストールが完了したら、次の手順でビデオドライバをインストールし、診断パーティションをマウントします。

1. Sun Ultra 20 ワークステーションにスーパーユーザとしてログインします。
2. Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD を DVD ドライブに挿入し、次のようにタイプします。

```
cd / マウント位置 /drivers/linux/ オペレーティングシステム
```

/ マウント位置 は CD がマウントされているディレクトリ、オペレーティングシステムはインストールされている Linux の種類です。

- 場合 CD が自動マウントされなかった場合、このディレクトリは存在しません。その場合、ステップ 3 およびステップ 4 の操作を行い、手動で CD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
 - オペレーティングシステムディレクトリへ移動できた場合には、ステップ 5 へ進んでください。
3. CD がオートマウントされない場合、ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドをタイプして CD をマウントします。

```
# mount -o ro /dev/cdrom / マウント位置
```

/ マウント位置 には、OS とオプティカルドライブの種類に応じたマウント位置を指定してください。

例：

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```

4. / マウント位置 /drivers/linux/ オペレーティングシステム ディレクトリに移動します。

/ マウント位置 は CD がマウントされているディレクトリ、オペレーティングシステムはワークステーションにインストールされている Linux の種類です。

例：

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```

5. 次のコマンドを使い、インストールスクリプトを実行します。

```
#./install.sh
```

X サーバが起動しているとき、このスクリプトは実行されません。

- スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、ステップ 6 へ進んでください。
- スクリプトが正しく実行されたら、ステップ 7 に進みます。

6. スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、次の手順で X サーバを無効にします。

- a. システムプロンプトで次のコマンドを投入します。

```
% init 3
```

- b. スーパーユーザとしてログインします。

- c. ステップ 4 とステップ 5 を再度行います。

7. ドライバのインストールが完了したら、CD を取り出します。

8. ワークステーションを再起動します。

Solaris オペレーティングシステム用ドライバのインストール

Solaris 10 オペレーティングシステムをご使用の場合には、次の手順でドライバのインストールと診断パーティションのマウントを行ってください。

1. Sun Ultra 20 ワークステーションにスーパーユーザとしてログインします。

2. Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD を DVD ドライブに挿入します。

Solaris 10 オペレーティングシステムが自動的に CD をマウントします。

3. 次のコマンドを投入し、/cdrom/cdrom0/drivers/sx86 ディレクトリへ移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```


4. 次のコマンドを使い、インストールスクリプトを実行します。

```
#./install.sh
```

ネットワークドライバとサウンドドライバがインストールされます。

インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムを再起動するよう求めるプロンプトが表示されます。

5. サーバを再起動します。
6. `xserver` の選択肢が表示されたら、デフォルト設定である `Xorg` を選びます。
7. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

Windows XP オペレーティングシステム用ドライバのインストール

Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD には、Windows XP 用に NVRAID、NVIDIA ディスプレイ、NVIDIA チップセットの各ドライバが含まれています。NVRAID ドライバをインストールする場合には、Windows XP オペレーティングシステムをインストールする前に、XpReburn スクリプトを使って必要なドライバを含む新しい Windows XP の CD を作成するか、またはドライバをインストールするためのブートディスクを作成しておく必要があります。

Windows XP 用ドライバのインストール手順は次の通りです。

1. ワークステーションで RAID 機能を使う予定がある場合には、次のいずれかの手順に従ってオペレーティングシステムをインストールする前に NVRAID ドライバをインストールします。
 - 「XPReburn 使った RAID ドライバのインストール」 (18 ページ) .
 - 「ブートディスクを使った RAID ドライバのインストール」 (19 ページ)
2. オペレーティングシステムをインストールします。
3. 「Windows XP 用 NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール」 (21 ページ) に従って、ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。
4. オンボードの ATI Rage XL PCI グラフィックコントローラを使う場合には、ATI ドライバをインストールする必要があります。

ATI ドライバは、ATI のウェブサイトからダウンロードできます。
<http://support.ati.com/>

ご参考: Supplemental CD は、Windows XP では診断パーティションをマウントしません。

XPReburn 使った RAID ドライバのインストール

Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD (705-1364-xx) には、必要な RAID ドライバを含む新しい Windows XP の CD を作成できるスクリプトが含まれています。新しい CD を作成したら、その CD からワークステーションを起動して Windows XP を通常通りにインストールするだけで、必要なドライバがすべて自動的にインストールされるため、USB フロッピーディスクドライブを接続して NVRAID ドライバをインストールする手間を省くことができます。

XpReburn スクリプトに関する特定および最新の情報については、Supplemental CD (705-1364-10 またはそれ以降) の /drivers/utilities/XpReburn にあるスクリプトの冒頭に記載されている説明をご参照ください。

RAID 設定を持つ Windows XP をインストールするには、次のものをご用意ください。

- x86 システム用 Solaris オペレーティングシステム、Solaris オペレーティングシステム (SPARC[®] Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SUSE Linux Enterprise System (SLES) 9 の何れかが動作しているシステム
- CD パーナー
- 新品の CD-R または CD-RW
- Windows XP Professional の CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD

Sun Ultra 20 ワークステーション用のドライバを含む Windows XP インストール CD を作成するには、次の操作を行います。

1. Solaris x86、Solaris OS (SPARC Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SLES 9 を OS とするシステムに、Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD を挿入します。

2. スーパーユーザとしてログインし、1.2 GB 以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。

例：

```
# mkdir /files
```

3. XpReburn_ バージョン.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。

バージョンは、XpReburn のバージョン番号です。

例：

```
# cp /drivers/utilities/XpReburn_1.0.zip /files
```

4. Supplemental CD を取り出して、製品版の Windows XP 32 Professional CD を挿入します。

5. XpReburn_バージョン.zip ファイルを解凍します。

例：

```
# unzip -q XpReburn_1.0.zip
```

6. XpReburn スクリプトを実行します。

例：

```
#./files/XpReburn
```

スクリプトは、現在のディレクトリにあるはずのドライバファイルを表示します。4つのドライバファイルをすべて一時ディレクトリにダウンロードし終わると、スクリプトは、新しい ISO イメージを作成し、システムに CD バーナーがあれば、自動的にその ISO イメージを CD に焼き付けます。

7. 作成した新しい CD を使い、Windows XP Professional を Sun Ultra ワークステーションにインストールします。

8. OS のインストールが完了したら、「Windows XP 用 NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール」(21 ページ)に従って、NVIDIA ディスプレイドライバをインストールします。

ブートディスクを使った RAID ドライバのインストール

このセクションでは、Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD を使って NVIDIA RAID ドライバのブートディスクを作成する方法と、そのドライバをワークステーションにインストールする方法について説明します。

ブートディスクを使って NVIDIA RAID ドライバをインストールするには、次のものが必要です。

- CD およびディスクドライブを持つ Windows マシン
- ブランクのフロッピーディスク
- Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD
- USB フロッピーディスクドライブ
- Windows XP Professional CD (製品版のみ、OEM 版は不可)

このセクションは、次のサブセクションから構成されます。

- 「NVIDIA RAID ドライバ用ブートディスクを作成する」(20 ページ)
- 「BIOS で RAID を設定する」(20 ページ)
- 「Windows XP と NVIDIA RAID ドライバを同時にインストールする」(21 ページ)

NVIDIA RAID ドライバ用ブートディスクを作成する

32 ビットまたは 64 ビットの Windows XP 用ブートディスクを作成するには、CD ドライブとフロッピーディスクドライブを持つ Windows マシンが必要です。

1. Windows マシンに **Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD** を挿入します。
2. CD 上の次のディレクトリに移動します。d:\drivers\windows\OS\chipset
OS は XP32 または XP64 です。
3. NForce_xxx_wxp.zip ファイルを解凍し、ローカルディレクトリ (例:C:\raid) にファイルを保存します。
4. ブランクのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
5. 解凍されたファイルのあるディレクトリ (例:C:\raid) へ移動し、IDE\WinXP\sataraid ディレクトリを開きます。
6. ディレクトリ中のすべてのファイルを選択し、フロッピーディスクドライブ (a:) にファイルをコピーします。

BIOS で RAID を設定する

Sun Ultra 20 ワークステーション BIOS および NVRAID BIOS を設定するには、次の操作を行います。

1. **Sun Ultra 20** ワークステーション BIOS における RAID の設定手順：
 - a. ワークステーションを再起動し、Sun ログ画面で F2 キーを押します。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
 - b. メインメニューから [Integrated Peripherals] を選びます。
 - c. [RAID config] を選びます。
 - d. RAID の設定を [Enable] に変更します。
 - e. F10 キーを押して変更を保存し、セットアップ画面を閉じます。
2. **NVRAID BIOS** における RAID の設定手順：
 - a. F10 キーを押して NVRAID BIOS を開きます。
 - b. 0 または 1 を選んで RAID アレイを作成します。
 - c. BIOS を終了します。

Windows XP と NVIDIA RAID ドライバを同時にインストールする

BIOS で RAID を設定できたら、Sun Ultra 20 ワークステーションに Windows XP と NVIDIA RAID ドライバをインストールします。

1. USB フロッピーディスクドライブをワークステーションに接続します。
2. 32ビットまたは64ビットの Windows XP インストール CD を DVD ドライブに挿入します。
3. F6 キーを押して、サードパーティ製 RAID ドライバのインストールを開始します。
4. S キーと Enter を押して、追加ドライバのインストールを指定し、フロッピーディスクを挿入します。
5. [NVIDIA NForce Storage Controller] を選びます。
6. S キーと Enter を押して、追加ドライバのインストールを指定します。
7. [NVIDIA RAID CLASS DRIVER] を選びます。
8. Enter キーを押して、Windows XP のインストールを続行します。
9. OS のインストールが完了したら、「Windows XP 用 NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール」(21 ページ)に従って、NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

Windows XP 用 NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバのインストール

ご参考： XpReburn オプションを使って NVRAID ドライバを含む Windows XP CD を作成した場合には、チップセットドライバをインストールする必要はなく、ディスプレイドライバだけをインストールします。

Windows XP のインストール後に NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールするには、次の操作を行います。

1. Sun Ultra 20 Workstation Supplemental CD を DVD ドライブに挿入します。
2. (必要に応じて) チップセットドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを投入して、Supplemental CD 上の該当するディレクトリに移動します。

```
C:\> cd/D D:\drivers\windows\OS\chipset
```

OS は XP32 または XP64 です。

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従います。
3. ディスプレイドライバをインストールします。
- a. 次のコマンドを投入して、Supplemental CD 上の該当するディレクトリに移動します。

```
C:\> cd/D D:\drivers\windows\OS\video
```

OS は XP32 または XP64 です。

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従います。
4. ワークステーションを再起動します。

インストール済みソフトウェアの設定

Sun Ultra 20 ワークステーションには、出荷時に Solaris 10 オペレーティングシステムと開発用ソフトウェアがインストールされています。本章では、Solaris 10 の設定方法および開発用ソフトウェアの使用方法について説明します。

本章は次の各セクションから構成されます。

- 「Solaris 10 オペレーティングシステムソフトウェアの設定」 (24 ページ)
- 「インストール済み開発ソフトウェアの設定」 (28 ページ)
- 「Install Check ツールの使用」 (39 ページ)

Solaris 10 オペレーティングシステムソフトウェアの設定

本セクションでは、次の各項目について説明します。

- 「ライセンス契約に関する情報」 (24 ページ)
- 「ディスクの設定」 (24 ページ)
- 「インストール手順」 (25 ページ)
- 「インストール済み Solaris 10 オペレーティングシステムの設定」 (26 ページ)

ライセンス契約に関する情報

ワークステーションにインストールされているバージョンの Solaris 10 オペレーティングシステムのライセンスは無料でご使用頂けます。ただし、別のバージョンの Solaris ソフトウェアをインストールする場合、新しいソフトウェアバージョンに対するライセンス料を支払う必要が生じることもあります。Sun Ultra 20 ワークステーションは、Solaris 10 またはそれ以降のバージョンの Solaris ソフトウェアと互換性があります。詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sun.com/software/solaris/licensing/index.html>

ディスクの設定

工場出荷時の設定は、次の通りです。

- ハードドライブ上のルートパーティション - 14.0 ギガバイト
- ハードドライブ上のスワップパーティション - 2.0 ギガバイト
- ハードドライブ上の var パーティション - 6.0 ギガバイト
- ハードドライブ上のエクスポートパーティション - 残りのディスク容量すべて

インストール手順

図 3-1 に、動作環境の設定手順をフロー図で示します。

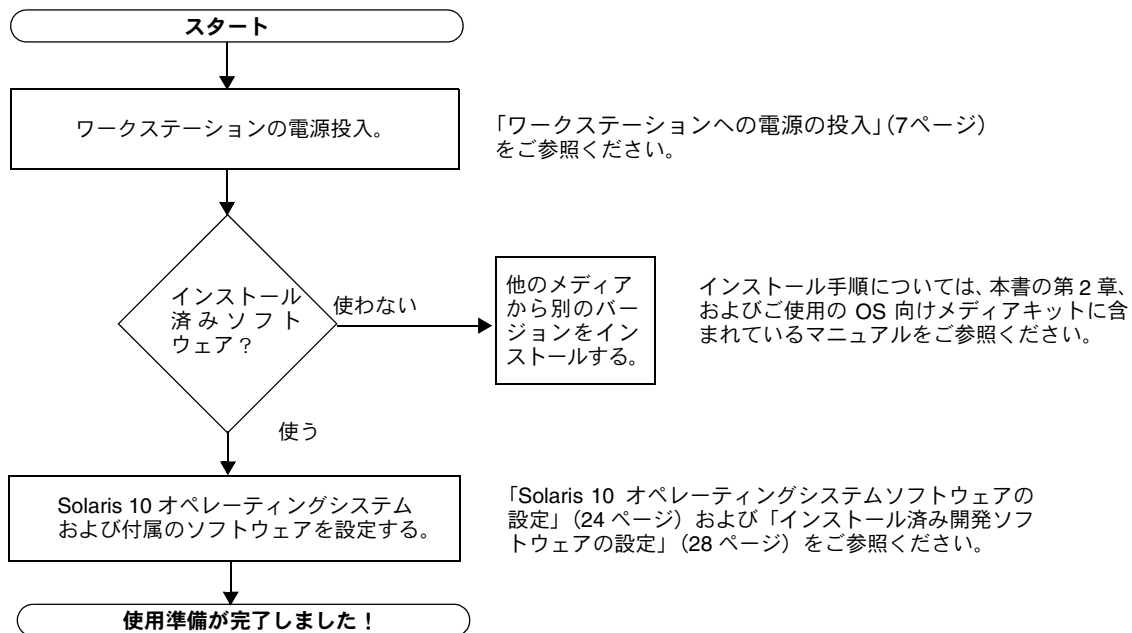


図 3-1 インストール作業図

インストール済み Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

出荷時にインストール済みの Solaris 10 x86 Platform Edition の設定は、次の手順で行います。

1. ワークステーションの電源を入れます。

「ワークステーションへの電源の投入」(7 ページ) をご参照ください。

2. 表示される画面の指示に従い、設定情報を入力します。

表 3-1 に、Solaris 10 オペレーティングシステムの設定に必要な情報をあらかじめ書き留めておくと便利です。

表の記入にあたっては、システム管理者 (SA) からサイト特有の情報を入手してください。ネットワークから提供される情報についてもシステム管理者にお問い合わせください。

ご参考： Xserver が選択されている場合、Xorg サーバと Xsun サーバのどちらを選ぶかという選択肢が表示されます。Xorg サーバを選んでください。

3. 設定を完了すると、ワークステーションが再起動します。

起動時にログインウィンドウが表示されます。正しいユーザ名とパスワードを入力してログインすると、ワークステーションの操作を開始できます。

4. インストール済みソフトウェアに関する最新情報については、『Solaris 10 Operating System Release Notes』をご参照ください。

『Solaris 10 Operating System Release Notes』は、次のサイトから入手できます。

<http://docs.sun.com>

表 3-1 インストール済み Solaris 10 の設定に必要な情報

設定ウィンドウの表示	説明と注記	入力する情報
Select Language and Locale	ワークステーションで使用する言語とロケール	
Host Name	ワークステーションの識別名	
Terminal Type	ワークステーションで使用する端末のタイプ	

表 3-1 インストール済み Solaris 10 の設定に必要な情報 (続き)

設定ウィンドウの表示	説明と注記	入力する情報
Network Connectivity (IP Address)	ネットワークまたはスタンドアロンワークステーションの プロトコル。このセクションに必要な情報はシステム管理者から 入手してください。 ご参考： 入力した内容およびネットワークから得られる情報 の種類によっては、ワークステーションの IP アドレスの入力 を求めるプロンプトが表示される場合もあります。	
IPv6	ワークステーションで IPv6 を有効にするオプション。	
Security Settings	セキュリティ設定とプロトコル。	
Name Service	使用するネームサービス：NIS+、NIS、DNS、LDAP、または None。 ご参考： ワークステーションがネットワークに接続されてい ない場合には、このウィンドウは表示されません。	
Domain Name	このワークステーションの NIS または NIS+ ドメイン。 ご参考： ワークステーションがネットワークに接続されてい ない場合には、このウィンドウは表示されません。	
Name Server/ Subnet/ Subnet Mask	ネームサーバ (手動で指定、またはワークステーションがロー カルサブネット上で自動検出)。 ご参考： ワークステーションがネットワークに接続されてい ない場合には、このウィンドウは表示されません。 ご参考： 入力した内容およびネットワークから得られた情報 の種類によっては、次の情報を求めるプロンプトが表示される 場合があります。 • ワークステーションのサブネット • ワークステーションのサブネットマスク	
Time Zone	現在地の時間帯 (地域、GMT オフセット、または時間帯ファ イル)。	
Date and Time	現在の日時 (デフォルトの日時を使うか、現在の日時を入力)。	
Root Password	ワークステーションのルート (スーパーユーザ) パスワード。	
Proxy Server Configuration	ワークステーションの接続方法：インターネットに直接接続ま たはプロキシサーバを経由して接続。	

インストール済み開発ソフトウェアの設定

Sun Ultra 20 ワークステーションには、次の開発ソフトウェアがあらかじめインストールまたはプレロードされています。

- 「Sun Studio 10 ソフトウェア」 (28 ページ)
- 「Sun Java Studio Creator 2004Q2」 (33 ページ)
- 「Sun Java Studio Enterprise 7」 (35 ページ)

Sun Studio 10 ソフトウェア

このセクションには、Sun™ Studio 10 ソフトウェアに関する次の情報が含まれています。

- 「Sun Studio 10 ソフトウェアの概要」 (28 ページ)
- 「Sun Studio 開発者ツールと Man ページへのアクセスの設定」 (29 ページ)
- 「環境変数に変更を追加」 (31 ページ)
- 「Sun Studio ソフトウェアのアンインストール」 (32 ページ)

Sun Studio 10 ソフトウェアの概要

Sun Studio 10 ソフトウェアは、Solaris オペレーティングシステム向けに C、C++、Fortran を使って信頼性の高いスケーラブルな高性能アプリケーションを開発する包括的、効率的な環境を提供します。ソフトウェアパッケージには、コンパイラ、パフォーマンス解析ツール、パワフルなデバッガに加えて、統合開発環境 (IDE) も含まれています。

Sun Studio 10 IDE では、C、C++、Fortran アプリケーションを作成、修正、ビルド、デバッグ、パフォーマンスを解析するモジュールが提供されます。JNI (Java Native Interface) 開発に必要な場合に有効化できる基本的 Java™ 言語サポートモジュールセットも含まれています。

Sun Studio 10 ソフトウェアは、次の 2 つの主要コンポーネントから構成されています。

- IDE、コンパイラ、ツール、コアプラットフォームを含む Sun Studio コンポーネント
- コアプラットフォームの動作基盤である Java 2 Platform, Standard Edition version 1.4.2_06 (J2SE) テクノロジー

Sun Studio 10 ソフトウェアに関する詳細は次から入手できます。

- Solaris プラットフォームのリリースノート：次の開発者ポータルから入手できます。
http://developers.sun.com/tools/cc/documentation/ss10_docs/release_notes.html
リリースノートの情報は、すべての readme ファイルの情報を更新、拡張するものです。
- Sun Studio のマニュアル：Product man pages、readme の HTML バージョン、マニュアルは、`/installation_directory/docs/index.html` からご覧いただけます。
Solaris プラットフォームのデフォルトのインストールディレクトリは `/opt/SUNWspro` です。

Sun Studio 開発者ツールと Man ページへのアクセスの設定

Sun Studio 10 ソフトウェア製品コンポーネントと Man ページは、システムディレクトリ `/usr/bin/` と `/usr/share/man` にはインストールされていないため、`PATH` と `MANPATH` 環境変数を変更して、Sun Studio 10 ソフトウェアの使用を可能にする必要があります。

ご参考： 本セクションで示すパスは、Sun Studio 10 パッケージがデフォルトの `/opt` ディレクトリにインストールされていることを前提として記述されています。Sun Studio 10 パッケージを別のディレクトリにインストールした場合は、例中の `/opt` を実際のディレクトリ名に置き換えてください。

ホーム環境ファイルで `PATH` と `MANPATH` 変数を設定します。次に示す例では、C シェルを使っている場合は `.cshrc` ファイルが表示され、Bourne シェルまたは Korn シェルを使っている場合は `profile` ファイルが表示されます。

`PATH` と `MANPATH` 環境変数に関する詳細については、該当する Man ページをご参照ください。SunOS Man ページ `csh(1)` には、C シェルの `PATH` ファイルが、`sh(1)` Man ページには、Bourne シェルの `PATH` 変数、`ksh(1)` Man ページには、Korn シェルの `PATH` 変数が記載されています。`man(1)` Man ページには、`MANPATH` 変数が記載されています。

Sun Studio ツールにアクセスできるよう `PATH` 環境変数を設定

Sun Studio 10 ソフトウェアのコメントを使うには、`PATH` 環境変数に、パス `/opt/SUNWspro/bin` を含める必要があります。`PATH` 環境変数を設定する必要があるかどうかを判断するには、次の手順に従います。

1. 次のコマンドを投入して、`PATH` 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. /opt/SUNWspro を含むパスのストリングの出力を確認します。
 - このパスが存在する場合、PATH 変数は Sun Studio 10 ソフトウェアツールにアクセスできるように設定されています。(/opt パスは、必要に応じて実際のインストールパスに置き換えてください。)
 - このパスが見つからない場合は、ステップ 3 に従って PATH 変数を設定します。
3. パス /opt/SUNWspro/bin を PATH 環境変数に追加します。前のバージョンの Sun Studio、Sun ONE Studio、Forte Developer ソフトウェアがインストールされている場合は、以前のインストールパスの前にこのパスを追加します。

ご参考： 例に示すファイル名の代わりにご自分のホーム環境ファイルの名前をお使いください。

- C シェルを使っている場合は、ホーム .cshrc ファイルを修正して、パスを追加します。
- Bourne シェルまたは Korn シェルを使っている場合は、ホーム .profile ファイルを修正して、パスを追加します。

Sun Studio Man ページにアクセスできるように MANPATH 環境変数を設定

Man コマンドを使って Sun Studio 10 ソフトウェアの Man ページにアクセスするには、MANPATH 環境変数に、パス /opt/SUNWspro/man を含める必要があります。MANPATH 環境変数を設定する必要があるかどうかを判断するには、次の手順に従います。

1. 次のコマンドを投入して、dbx(1) Man ページを要求します。

```
% man dbx
```

2. 出力があれば確認します。

man dbx コマンドを使っても dbx(1) Man ページが見つからない場合、または表示されたページがインストールされているソフトウェアバージョンのものでない場合は、MANPATH 変数が正しく設定されていません。次の手順に従って PATH 変数を設定してください。

3. パス /opt/SUNWspro/man/ を MANPATH 環境変数に追加します。
 - C シェルを使っている場合は、ホーム .cshrc ファイルを修正して、パスを追加します。
 - Bourne シェルまたは Korn シェルを使っている場合は、ホーム .profile ファイルを修正して、パスを追加します。

環境変数に変更を追加

すべての Sun Studio 10 コンポーネントが常に利用できるよう、次の手順を使って、Sun Studio 10 ソフトウェアツールと Man ページへのパスを該当する環境変数に追加します。これらのコマンドをシェルプロンプトに入力すると、そのシェルでのみ一時的にパスが有効になります。

1. Sun Studio 10 ソフトウェアを PATH 変数と MANPATH 変数に追加します。

ご参考： 各ユーザがインストールされたソフトウェアを使えるようにするには、各ユーザの環境で Sun Studio 10 ソフトウェアを含めるように PATH 変数と MANPATH 変数を設定する必要があります。

- C シェル (csh) をお使いの場合は、MANPATH 変数がすでに設定されているかどうかをまずご確認ください。シェルプロンプトに次のコマンドを投入します。

```
% echo $MANPATH
```

「Undefined variable」という応答が戻ってきた場合、MANPATH 変数は設定されていません。man ディレクトリへのパスがひとつでも表示された場合には、変数は設定済みです。ホームディレクトリで .cshrc ファイルを編集し、次の行をファイルの最後尾に追加してください。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin path)
```

MANPATH 変数がまだ設定されていない場合には、次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:/usr/share/man
```

MANPATH 変数がすでに設定されている場合には、次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:$MANPATH
```

- Bourne または Korn シェル (sh または ksh) をお使いの場合は、ホームディレクトリの .profile ファイルを編集し、次の行を .profile ファイルに追加します。

```
PATH=/opt/SUNWspro/bin${PATH:+:}${PATH}
MANPATH=/opt/SUNWspro/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

上の 2 行にはスペースを含めないでください。

2. ステップ 1 で修正した `.cshrc` または `.profile` ファイルを保存します。
3. 次のコマンドを実行して、シェルを再初期化します。
C シェルでは次のようにタイプ入力します。

```
source ~/.cshrc
```

Bourne または Korn シェルでは次のようにタイプ入力します。

```
. ~/.profile
```

Sun Studio ソフトウェアのアンインストール

ここでは、バッチアンインストーラを使って Sun Studio 10 ソフトウェアを削除する方法について説明します。他の方法を使って Sun Studio 10 ソフトウェアをアンインストールしたい場合は、『*Sun Studio 10: Installation and Setup Guide for Solaris Platforms*』(819-0485-xx)をご参照ください。

このマニュアルは、次のサイトからご覧いただけます。

<http://docs.sun.com>

バッチアンインストーラは、サイレントモードですべての Sun Studio 10 ソフトウェアを削除します。

ご参考： アンインストーラがシステム中に利用できる J2SE テクノロジーを見つけられない場合は、次のシンタックス `./batch_uninstall_all -j /usr/java1.2` で `-j` オプションを使ってアンインストーラを実行する必要があります。

バッチアンインストーラを使って Sun Studio をアンインストールするには、次の操作を行います。

1. 次のコマンドを投入して、スーパーユーザになります。

```
% su  
Password: ルートパスワード
```

2. 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリへ移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.studio_10
```


3. 次のコマンドを入力して、バッチアンインストーラを起動します。

```
#./batch_uninstall_all
```

バッチアンインストーラが起動し、アンインストールを実行します。

Sun Java Studio Creator 2004Q2

このセクションには、Sun Java™ Studio Creator ソフトウェアに関する次の情報が含まれています。

- 「Sun Java Studio Creator 2004Q2 の概要」 (33 ページ)
- 「ルートユーザとして Sun Java Studio Creator を起動」 (33 ページ)
- 「Sun Java Studio Creator のアンインストール」 (35 ページ)

Sun Java Studio Creator 2004Q2 の概要

Sun Java Studio Creator 開発環境 (以前の「Project Rave」) は、次世代の Java アプリケーション開発ツールです。100% Java スタンドアロンのパワーと簡略化されたビジュアル開発テクニックが融合した最も効果的かつ高生産性の Java アプリケーション開発ツールです。

Java Studio Creator 環境は、ビジネスクリティカルなアプリケーションをすばやく開発することに重点を置く熟練した開発者のニーズを満たすよう設計、検証されています。Java Studio Creator では、開発者は、Java プラットフォームのパワーを活用して、これまで使い慣れている生産性の高いビジュアルスタイルを犠牲にすることなく、ビジネス上の課題を克服できます。

Sun Java Studio Creator に関する追加情報は、次のサイトからご覧いただける製品マニュアルに含まれています。

<http://developers.sun.com/prodtech/javatools/jscreator/reference/docs/index.jsp>

ルートユーザとして Sun Java Studio Creator を起動

Sun Ultra 20 ワークステーションには、Sun Java Studio Creator があらかじめインストールされています。このソフトウェアは、ルートユーザによる使用を意図してインストールされています。

インストール済みの Creator を起動するには、ルートユーザとして次のコマンドを投入します。

```
# /opt/Creator/bin/runide.sh
```

ルートユーザとして Sun Studio Creator を起動したくない場合には、「Sun Java Studio Creator のインストール」(34 ページ) の手順でソフトウェアを再インストールし、必要なアップデートをダウンロードする必要があります。

Sun Java Studio Creator のインストール

Sun Studio Creator ソフトウェアを再インストールし、アップデートをダウンロードするには、次の操作を行います。

1. ワークステーションに付属の Sun Studio Creator メディアキットに記載されている指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

Sun Studio Creator をインストールし終わったら、次のコマンドを投入してソフトウェアを起動します。

```
% /インストールディレクトリ/bin/runide.sh
```

インストールディレクトリは、ソフトウェアをインストールしたディレクトリです。

2. ユーザインターフェイスの [Tools] メニューから [Update Center] を選びます。

[Autoupdate] ウィザードが表示されます。

3. 必要に応じてプロキシを設定し、**Creator Update Center** に接続します。

アップデートするモジュールのリストが表示されます。

4. アップデートオプションをすべて選ぶか、トップレベルのフォルダを選びます。

アップデートと最新の J2SE 1.4.2_06 パッケージが、ワークステーションにダウンロードされます。

ダウンロードが終わったら、ダイアログボックスに次のオプションが表示されます。

1. Install Now & restart the IDE

2. Install later

5. 次のいずれかを実施します。

- インストールを継続する場合は、ダイアログボックスを開いたままにして、ステップ 6 に進みます。
- インストールを継続しない場合は、ダイアログボックスで 2 を選びます。

6. **Mozilla** ウェブブラウザを起動します。

7. ステップ 5 で開いたままにしておいたダイアログボックスで **1** を選びます。

ソフトウェアパッケージがインストールされ、IDE が起動します。

IDE が起動し終わると、JSE パッケージを適用する手順がブラウザに表示されます。

8. ブラウザに表示される手順に従って、**JSE** パッケージを適用します。

以上で Creator IDE の使用準備が整いました。

Sun Java Studio Creator のアンインストール

Sun Java Studio Creator をアンインストールするには、次の操作を行います。

1. インストールディレクトリ / _uninst ディレクトリで、次のコマンドを投入します。

```
./uninstall.bin
```

インストールディレクトリは、Creator がインストールされているディレクトリです。

2. アンインストールウィザードの指示に従って、アンインストールを完了します。

3. インストールフォルダを削除します。

Sun Java Studio Enterprise 7

このセクションには、Sun Java™ Studio Enterprise 7 ソフトウェアに関する次の情報が含まれています。

- 「Sun Java Studio Enterprise の概要」 (35 ページ)
- 「ルートユーザとしてインストール済みの Sun Java Studio Enterprise を起動」 (36 ページ)
- 「Sun Java Studio Enterprise のインストール」 (36 ページ)
- 「アプリケーションサーバの設定」 (37 ページ)
- 「Sun Java Studio Enterprise 7 のアンインストール」 (37 ページ)

Sun Java Studio Enterprise の概要

Sun Java Studio Enterprise は、Sun Java Enterprise システムの機能に完全に統合できるよう設計されているツール、サポート、サービスを含む完璧でコスト効果の高い統合プラットフォームです。Java Studio Enterprise では、生産性を改善するよう注意深く設計された環境でアプリケーションを開発できると同時に、Java Enterprise システムですぐに展開できる洗練されたネットワークアプリケーションを簡単に作成できます。

Sun Java Studio Enterprise に関する追加情報は、次のサイトからご覧いただける製品マニュアルに含まれています。

<http://docs.sun.com>

ルートユーザとしてインストール済みの Sun Java Studio Enterprise を起動

インストール済み Sun Java Studio Enterprise を起動するには、次の操作を行います。

1. コラボレーションサーバの設定ファイルを修正します。

テキストエディタで次のファイルを開き、次に示す行を修正します。

```
/opt/SUNWjstudio04q4/jstudio_04Q4/CollabRuntime/config/xmppd.conf
```

```
iim.smtpserver= ホスト名  
iim.register.domain= ドメインネーム  
iim_server.domainname= ドメインネーム
```

ホスト名とドメインネームは、コラボレーションサーバのホスト名とドメインネームです。

2. 次のコマンドを投入して、**IDE** 実行可能ファイルを含むインストールディレクトリに移動します。

```
% cd /opt/SUNWjstudio04q4
```

3. **IDE** を起動します。

```
% ./runide.sh
```

Sun Java Studio Enterprise のインストール

ルートユーザ以外として Sun Java Studio Enterprise を使いたい場合は、ソフトウェアを再インストールする必要があります。

インストール手順については、ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照するか、次の URL をご覧ください。

<http://docs.sun.com/source/817-7971/index.html>

アプリケーションサーバの設定

アプリケーションサーバの設定に関する情報は、『*Sun Java Studio Enterprise 7 Installation Guide*』(817-7971-xx)の第9章の「Using Sun Java System Application Server Instances in the IDE」をご参照ください。ドメインは、デフォルトでルートとして作成されています。ルートユーザ以外のアプリケーションサーバのドメインを作成するには、「Understanding Administrative Domains」リンクに従って、「To Create a Domain for Another User」に関するセクションをご参照ください。

Sun Java システムのアプリケーションサーバのログイン情報は次の通りです。

- アプリケーションサーバのデフォルトのログインユーザ名は、admin に設定されています。
- パスワードは、adminadmin に設定されています。

Sun Java Studio Enterprise の使用に関する情報については、次のサイトからご覧いただける製品マニュアルをご参照ください。

<http://docs.sun.com>

Sun Java Studio Enterprise 7 のアンインストール

Sun Java Studio Enterprise 7 を Solaris システムからアンインストールするには、Sun Java Studio Enterprise 7 アンインストーラを使います。

ご注意： このソフトウェアを一部でもアンインストールする場合、`rm -ror pkgsrcmcommands` は使わないでください。アンインストーラを使わないと、システムが破損する可能性があります。

Java Studio Enterprise ソフトウェアをアンインストールするには、次の操作を行います。

1. 手順を始める前に、IDE を終了し、シャットダウンします。
2. 次のコマンドを投入して、クライアントが X サーバにアクセスできるようにします。

```
% xhost + machine-name
```

3. スーパーユーザ（ルート）になります。
4. ディスプレイ環境変数を設定し、ローカルマシンに表示します。

```
% setenv DISPLAY ローカルマシンの名前 :0.0
```

5. 次のコマンドをタイプ入力して、**Java Studio Install** ディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/SUNWjstudio04q4
```

6. アンインストーラウィザードを起動します。

```
#./uninstall
```

アンインストーラが起動し、[Welcome] 画面が表示されます。

7. [Next] をクリックします。

[Product Selection] 画面が表示されます。

8. アンインストールしたい製品を選びます。

警告メッセージが表示されたら、注意深く読んでください。アンインストーラは、他の Java Studio Enterprise コンポーネント製品がシステムでまだ使用している可能性のあるコンポーネント製品をアンインストールしてしまう可能性があります。

9. [Next] をクリックすると、アンインストールプロセスが始まります。

アンインストールには数分かかります。

10. アンインストールが完了したら、[Close] をクリックします。

11. `java-studio-install-dir` をクリックします。

Java Studio Enterprise ソフトウェアのアンインストールがすべて無事に完了すると、`java-studio-install-dir` が空になります。

ディレクトリに他のファイルが含まれている場合は、アドオン製品がインストールされているか、アンインストールが完了していない可能性があります。コンポーネント製品を個別にアンインストールした場合、残りの製品のインストールディレクトリはそのまま存在します。

ご参考： アンインストーラは、`java-studio-install-dir` を削除しません。

12. アンインストールログファイルを開き、エラーメッセージを確認します。

ログファイルは、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあります。ログファイル名の形式は次の通りです。

- * `Sun_Java_Studio_Enterprise_7_2004Q4_uninstall.Atimestamp`
- * `Sun_Java_Studio_Enterprise_7_2004Q4_uninstall.Btimestamp`

13. アンインストールが完了していないと思われる場合には、失敗したアンインストールの対処法について、『*Sun Java Studio Enterprise 7 Installation Guide*』(817-7971-xx) をご参照ください。

14. (オプション) アンインストールが成功した後、残っているディレクトリを削除します。

```
# rm -r java-studio-install-dir
```

ご参考： Java Studio Enterprise ソフトウェアをすべてアンインストールして、ファイルがもう必要ないことが確かな場合だけ、残っているディレクトリを削除してください。

このコマンドを使うと、ログファイルとインストールディレクトリだけが削除されます。このコマンドを使って製品ファイルを削除することはできません。ログファイルとファイルが保存されているディレクトリを削除する前に、アンインストールが無事に完了している必要があります。

15. クライアントアクセスを無効にして、スーパーユーザ権限を終了します。

```
# xhost - machine-name  
# exit
```

Install Check ツールの使用

Sun Install Check は、ワークステーションのソフトウェアとハードウェアの設定に関する情報を確認し、提供する便利なツールです。Sun Install Check ツールは次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/installcheck/index.html>

